



四万十源流

[町議会だより] **Town Council Newsletter**



- 令和8年度に臨む施政方針
- 令和8年度予算審査を徹底チェック
- 心のふれあい広場「農業女子、夢を耕す。」

●3月定例会(384回)

3月定例会は、3月6日から12日までの7日間の会期で開催された。

今定例会では、令和8年度に向けた町の施政方針の説明が行われたほか、議案審議では高橋町長就任後初となる「令和8年度当初予算案」が提出された。本予算案は、まちづくり常任委員会に付託。委員会では10日に集中審議が行われ、慎重な審査がなされた。

また、各会計補正予算や「梶原町ふるさと応援基金条例」の制定など、計46議案を本会議で審議。その結果、すべての議案について原案どおり可決・承認した。

一般質問では、5人の議員が登壇し、次のとおり町の考えをたじた。

矢野 明 議員

- 自主財源の現状認識について
- 財政健全化に向けた具体的な改革案について
- 民間企業の視点を取り入れた行政改革について

西川 慶男 議員

- 持続可能な財政運営について
- 森林資源活用の加速に向けた取り組みについて

森田 呂弥 議員

- 高齢化の進行と地域医療について
- 生活基盤の維持について

藤原 伸 議員

- 梶原町観光開発について
- 湧水対策について

來米 豊史 議員

- 梶原町で働く人のための住宅問題について

行政報告



行政報告を行う高橋町長

町長は、令和7年12月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。(抜粋)

総務課関係

- 物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金事業について
- 定時登録について
- 第51回衆議院議員総選挙及び第27回最高裁判所裁判官国民審査の実施について
- 梶原町開発振興計画審議会の実施について
- 梶原消防団出初式の開催に

ついて

- 空域を活用した搭乗体験実証実験の実施について
- 災害用段ボールトイレの寄贈について

まちづくり産業推進課関係

- 梶原町・梶原高校・高知学園大学・高知学園短期大学の地域人材育成に関する包括連携協定締結式の開催について

森林づくり脱炭素推進課関係

- 新エネルギー等施設導入事業について

保健福祉課関係

- 梶原町民生委員児童委員委嘱式の開催について
- 梶原町国民健康保険運営協議会の開催について

環境整備課関係

- 簡易水道事業について

生涯学習課関係

- 二十歳を祝う集いの開催について

もくじ

P2 行政報告

P3 令和8年度
施政方針

P4～P7 令和8年度
予算審査

P8～P13 3月定例会
議案審議の概要

一般質問

P14～P18 議会活動報告

P19 寄付のお礼

P19 閉会中の
所管事務調査事項

P19 お詫びと訂正

P19 あとがき

P20 心のふれあい広場
農業女子、夢を耕す。

令和8年度に臨む施政方針

令和8年度に臨む施政方針については「広報ゆすはら」4月号に、詳しく掲載されますので、抜粋して掲載致します。

●町民一人ひとりが主役の、持続可能な橋原町へ

昨年12月の町長選挙を経て、就任から2か月半が経過した。多くの支援と厳しい意見を胸に、その責任の重さを日々実感している。

掲げる理想は「町民一人ひとりが主役のまち」である。10年、20年先を見据えた持続可能な町づくりと、今を生きる町民の幸福感（ウェルビーイング）の向上に、不転の決意で取り組む所存だ。

人口減少や気候変動など、直面する課題は山積している。しかし、本町には「地域を支える人々の力」という、何物にも代えがたい財産がある。令和8年に迎える町制施行60周年という節目に向け、歴史に学び、住民・企業・団体と一丸となつて、未来への確かな一歩を踏み出していく。

●令和8年度施政方針概要 町民一人ひとりが主役の未来へ

令和8年度予算案（一般会計63億400万円）に基づき、主要施策の骨子と町政への決意を述べる。

1 人口減少対策と教育・コミュニティの再生

空き家・移住定住 所有者による自主管理を支援しつつ、優良物件を町が借り上げる「移住定住促進住宅」の整備を推進。

子育て・教育 4月より「こども誰でも通園制度」を開始。小中学校の給食完全無償化を実現し、子育て世帯の経済的負担を軽減する。

地域再生 集落活動センターを核とし、住民自らが主体となる持続可能な地域運営を伴走支援する。

2 地域経済の活性化と産業振興

林業・農業 新たな森林経営組織の発足準備や、ICTを活用した若手農家の育成、地域ブランド（キジ肉・ゆすはら牛）の強化を図り「稼げる産業」を再構築する。

観光基盤 太郎川公園の複合拠点整備は、町民との丁寧な対話を堅持し、町全体の価値を高める戦略的な施策として進める。

3 持続可能な生活基盤の整備

脱炭素・防災 木質バイオマス発電事業の早期稼働を目指すとともに、自主防災組織や消防団との連携により、災害に強いまちづくりを強化する。

命の道・水 国道197号や439号の整備促進、老朽化した水道施設への修繕補助を行い、安全な暮らしの基盤を確保する。

交通・福祉 デマンド交通等の多様な移動手段を構築。また、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう「顔の見える」福祉・医療体制を維持する。

結びに「仁を成して紬（つむぐ）」

私の信念は「仁を成して紬」である。多様化するニーズに対し、他者への思いやりを持って向き合い、解決の糸口（紬）をたぐり寄せる。単に「できない」と断ずるのではなく、職員一丸となつて「どうすればできるか」を必死に模索し続けることが私の責務である。

10年、20年先を見据え、一人でも多くの町民に「住んで良かった」と実感していただけるよう、対話を重ねながら全力で町政に邁進する。



高橋町長

新年度予算総額 81億9千176万円を可決

令和8年度の一般会計をはじめとする各会計当初予算の審査は、まちづくり常任委員会に付託され、3月10日に執行部幹部職員以下職員の出席を求め審査を行い、一般会計予算、特別会計予算及び事業会計予算全11件の予算については、いずれも全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決定した旨の審査報告書を、12日に議長に提出した。

令和8年度予算審査での質疑(抜粋) お金の使い方を徹底チェック!

総務課関係

Q 町制60周年記念事業はどのように進めるのか。
森田 呂弥

A 記念式典は、町制施行日の11月3日を中心に、その前後の土曜日に実施したいと考えている。また、60周年の機運を、年間通じて高めていくため、既存の各種イベントに「60周年」の冠を付し、各課連携しながら展開していく。町民の皆様にも広く周知し、共に取り組む形で盛り上げていきたいと考えている。
総務課

まちづくり産業推進課関係

Q マルシエゆすはらの修繕工事費4千499万円は高額ではないか。茅葺き外壁の交換にはどの程度費用がかかるのか。
來米 豊史

A まちづくり産業推進課

今回の修繕工事には、足場の設置・撤去、木製手すり、外壁の高圧洗浄・塗装、空調設備、給湯器の取替などが含まれており、茅葺き外壁の交換費用は入っていない。

ない。町としても、茅葺きは通常の外壁より維持管理コストがかかるため、今後の管理方法を検討していく。



今回の修繕費には茅葺き部分は含まれていない

Q 観光施設維持管理及び修繕について、修繕工事は些細な修繕を常日頒行することで、多額の費用は抑えられるのではないか。
藤原 伸

A まちづくり産業推進課

外壁塗装の耐用年数は最長15年。マル

Q 西川 豊正

集落活動センター推進事業費補助金について、松原給油所のカソリン貯蔵埋没更新も近づいているのでは。事前に調査を行い、優位な事業費の導入を検討されたい。

A まちづくり産業推進課

ご指摘のとおりで、現在高知県に補助金があることは調べているが、今後必要となった際には町の持ち出しが少なくなるようにしていく。



集落活動センターが運営する松原給油所

シエに関しては初めての修繕となるが、足場の設置や撤去費用640万円を考えると、事あるごとの修繕で外壁修繕費約1千万円の金額が抑えられるとは言い切れない。

Q 市川 岩亀

農業基盤整備等補助金56万円は、既に申請されているものか。水田の用水路が高齢化に伴い手入れで苦労している。申請があれば重点的に整備すべきではないか。

A まちづくり産業推進課

この56万円は、要望を受け概算見積もりのみで計上している。

森林づくり脱炭素推進関係

Q 西川 慶男

伐採事業を行う際、作業道を整備して作業がしやすいように展開すべきである。

A 森林づくり脱炭素推進課

町の方で全て整備を行うことは難しいが、まずは相談をいただければ検討はできる。

A 町 長

今後はバイオマス発電事業も始めるため、材をどんどん搬出していかなければならぬ。できるだけ搬出しやすいような取り組みを進めていく。

Q 市川 岩亀

ペレット製品の需要と供給のバランスについて、現状と今後太郎公園の発電事業が始まるが、燃料とするペレットが需要に対応できるのか。

A 森林づくり脱炭素推進課

本年度は工事の関係もあり、製造量は

対して販売量も同程度で、在庫量は少ない状況。機械能力はあり人的な慣れもある。計画量が十分製造できるべく効率を上げていく。

Q 西川 慶男

担い手育成事業の内容は。また、林業の技術を身に付け、単独で事業展開できるように支援なのか。

A 森林づくり脱炭素推進課

地域おこし協力隊の報酬や活動費及び研修費用。協力隊自身が林業でということをやりたいかということを考えていただく3年間で、林業分野に携わる人材として町に定住していただくことが大きな目標である。

Q 土釜 清

森林組合の加工部門が休止している中、町産材を活用できなければ新築に係る補助金は成立しないのではないかと。

A 森林づくり脱炭素推進課

原木の証明は森林組合が行う。加工については自ら対応できないため、高幡木材センターと森林組合で協定を締結し、一定のトレーサビリティ※を確保することで補助要件を満たすことが可能となる。※トレーサビリティ：追跡可能性

Q 土釜 清

町有地の間伐については、皆伐が適当な箇所も見受けられるため、事後管理も含めた方針（何を残すか・どう間伐するか）を明確にし、森林管理の在り方を再検討すべきではないか。

A 森林づくり脱炭素推進課

町有地の間伐については、ご指摘のとおり点もあると認識している。現場の状況については十分な確認と精査が必要であり、あわせて今後の育林のあり方や山林の将来像についても、町として十分に検討した上で取り組んでいく。

保健福祉課関係

Q 藤原 伸

各福祉施設の運営補助金・委託金の経費について、人件費アップや物価高で施設維持に必要な補助委託金が増大傾向にある。各施設も努力し経費削減を目指していると思うが、行政としての確認指導は適切なのか。

A 保健福祉課

各施設への運営維持費となる委託金は、予算協議を行い、要望額の9割で予算を計上。各事業の実績は、要望額に対して安価に終了する予定。引き続き、サービス維持を図りつつ、効率的で経費等も削減できるような事業者を進めていく。

Q 西川 慶男

思いやり家庭支援金の内容は。

A 保健福祉課

要介護3以上（要介護2以上の方で認知症状が重い方も対象）の方を在宅で介護されている家庭に対して、月1万円を支給している。

Q 西川 豊正

雲の上のいきいきチケット負担金について、高齢者の足となり、町の活性化につながっている。現在の対象者と利用件数は。

A 保健福祉課

年間1万4千円分のチケットを、約200人程度の方が利用されている。



栲原病院・各診療所関係

Q 現在の経営状況は。

西川 慶男

A 栲原病院

令和7年度については、まだ決算見込の段階の数字となるが、今のところ2億4千800万円強が累積赤字という決算上の数字となる。

Q 思い切った改革を取り組まなければならない時期にきているのでは。

西川 慶男

A 栲原病院

現場と話をしながら外来収益があるような取り組みや、救急告示病床を2床から5床に増やして年間500万円増やしているという取り組みなども行っているが、なかなか数字に表れてこない。少しでも収益が上がるように努力する。

環境整備課関係

Q 西川 慶男

がけ崩れなどの申し込み状況は。またその見込は。

A 環境整備課

県単事業として要望件数は5件。その他、緊急性等を考慮して随時補正予算でも対応を考えている。町単事業については、7件の要望がある。いずれも要望が上がってきた段階で現地確認を行い、早急な対応を図っている。

Q 森田 呂弥

高刈り作業は、危険個所に重点化し、必要な部分のみ業者委託とするなど、効率的な手法に見直すべきではないか。

A 環境整備課

本事業は、区長会等からの要望を受けたものであり、町内の建設業者にも対応の可否を相談したが、実施は困難との回答。一方で森林組合からは毎年継続的に実施するのであれば町内での対応も可能との意向が示されたことから、本事業を計画したもの。

生涯学習課関係

Q 来米 豊史

芸術祭補助金は、具体的に何に使われているのか。また、先日行われた狂言公演などは、無料ではなく入場料を取る考えはないのか。

A 生涯学習課

補助金は、夢未来館での展示、町民サークルの発表、ワークショップなどに活用されているほか、芸術文化振興事業として狂言公演の開催や、町民が町外の芸術活動に参加する際の交通費補助にも使われている。

狂言公演については、これまで無料開催であったことや、参加状況が読めなかったことから、入場料は徴収しなかったが、今後は内容に応じて参加費のあり方も検討していく。



芸術祭補助金を活用して実施した和泉流宗家による狂言公演

Q 西川 慶男

魅力ある栲原高校づくり補助金の内容は。

A 生涯学習課

生徒表彰制度への補助や先進校視察、短期海外留学への補助等。また、脱藩塾という毎週月曜日と水曜日に3時間ずつ図書館において勉強しており、その塾の講師の人件費や進学補修のためのソフト利用への補助。

Q 西川 慶男

学力向上対策補助金について、生徒の学力の現状は。

A 教育長

学年によってバラつきがある。全国学力学習調査、県の学力調査で見るとほぼ全国平均並み。ただ、教科によっては低い部分もあるので、そういったところを高めていく必要がある。

栲原学園開校以降、小学校において全国平均より低い学年が、中学校では平均以上になっていく傾向にある。

Q 西川 慶男

栲原学園から栲原高校への進学率は。

A 教育長

進学率は70〜80%を目指している。今年はまだ結果がでていないが、受験率は63%となっている。

Q 藤原 伸

栲原学園の椅子・机購入費用について、町外への委託で毎年100万円(5万円/人)程度の費用がかかっている。処分に困る家庭もある。各家庭に必要なかどうかのアンケート調査を実施すべき。「物を大切にする視点」に変えて、地元業者で修繕を行い、繰り返し使えば経費削減になるのでは。

A 生涯学習課

この事業は、森林環境譲与税を用いて、栲原町子ども子育て支援事業計画にも盛り込み、児童の教育環境の充実を図る取り組みで行っている。計画策定の際にアンケートを実施し検討をしていきたい。



梶原学園入学生に毎年購入している椅子・机

Q

歴史民俗資料館管理運営費について、施設運営費用に対して約3%前後の低い収益率。全国平均は5%。増える施設運営維持管理費のためにも、入館料引き上げが必要では。

藤原 伸

A

今の状況では入館料を改正するのではなく、入館者を増やす視点で考えたい。これは、私が言った「民間企業の視点」を活かすことに当てはまると考える。

町 長

Q

生涯学習交流センター（ゆすゆす）について、壁など汚れが目立つという苦情がある。日々の清掃を怠ると業者による高額なクリーニング費用がかかることになる。そうならないように貸主として指導をすべきではないか。

藤原 伸

A

常日頃高校へ整理整頓や清掃の指導をしてもらっているが、我々も中に入るとは、汚れが目立つ箇所は高校へ即時連絡し改善を図ってもらっている。より一層の向上を図る。

生涯学習課

Q

同じく生涯学習交流センター（ゆすゆす）について、現在光熱水費が高騰している。生徒による節電意識を高めることや節水シャワーでの削減が必要ではないか。

藤原 伸

A

高校と2月に会を持ち、以前実施していた電気使用料のチェック再開を実施することになった。節水シャワーヘッド交換は今のところ考えていない。節約意識は高めていく。

生涯学習課

Q

図書館来館者向けの商品キャラクターのグッズ、バック等の販売を強固に進めてほしい。高校生とのコラボなど進めてどうか。

西川 豊正

A

年々徐々に販売数が伸びている。高校生とのアイデアは良いと思う。

生涯学習課

令和8年度 梶原町各会計当初予算の状況

(単位:千円)

会計別	令和8年度	令和7年度	対前年度比
一般会計	6,304,000	5,863,000	441,000
松原診療所特別会計	17,800	18,700	▲900
四万川診療所特別会計	8,600	14,300	▲5,700
国民健康保険特別会計	511,000	520,000	▲9,000
後期高齢者医療特別会計	79,500	74,100	5,400
介護保険事業特別会計	527,000	535,000	▲8,000
簡易水道事業会計	155,277	155,108	169
下水道事業会計	213,254	153,362	59,892
電気事業会計	159,272	100,695	58,577
病院事業会計	751,917	719,861	32,056
給与等集中管理特別会計	1,150,000	1,144,000	6,000
単純合計	9,877,620	9,298,126	579,494
各会計間重複控除額	1,685,852	1,665,518	20,334
差引純計額	8,191,768	7,632,608	559,160

3月
定例会

議案審議の概要

提案され審議した主な議案についての概要(※質疑は抜粋)

専決処分

一般会計補正予算(第7号)

〈主な補正内容〉

衆議院の解散により、衆議院議員選挙を実施することに伴い、その選挙事務に必要な経費を専決処分した
もの。

●総務費

690万8千円

承認

全員賛成

補正予算

一般会計補正予算(第8号)

〈主な補正内容〉

●議会費

▲151万円

議員旅費等の今後の見込による費用弁償の減額

●総務費

340万8千円

地域未来交付金の採択を受け実施する避難所におけるカプセルテント・循環型シャワー・浄水ユニット等の消耗品費及び防災備品購入費の増額、公共施設の修繕料の減額他

Q マイクログリッド事業において、申請手続きの遅れにより稼働が遅れるとのことだが、遅れによる町への影響は。

森田 呂弥

A 本来、町内で循環するはずであった電気料金
が町外へ流出している状況。今後は将来に向け
てエネルギーの地域内循環の実現に向け、改め
て取り組んでいく。

Q

森田 呂弥

A このような場合、民間の経営感覚でいくと、
リーダーとしてどのような対応をとるのか。

Q

森田 呂弥

A 色んなルートや人脈を使い、一生懸命になっ
て期間をできるだけ短くする方法しか現在はない。

Q

町長

A 物価高騰対策について、いつからどういう形
で実施されるのか。

Q

西川 慶男

A 消費拡大が見込まれる、ゴールデンウィーク
からお盆にかけて実施できればと考えている。
(75歳未満は商品券を3万円、75歳以上は現金を
3万円)

Q

総務課長

Q

西川 慶男

人家裏に別の所有者の山があり、もし裏山の
木が人家に損傷を与えた場合は、その所有者の
責任ということを啓蒙することによって、土地
所有者が事前に対応する、或いは伐採させてほ
しいと要請した場合など、対応できる仕組みづ
くりに取り組んでみては。

A

森林づくり脱炭素推進課長

住まれている方と持ち主の間で調整いただき
申請をいただければ危険木除去の実施は検討で
きる。

Q

西川 慶男

地域が国道沿いに桜を植え、成長し道路通行
の車両に対して危険木となっている。責任の所
在は町か、道路管理者である県か。また個人が
植えた樹木が同様の状況となった場合どうか。

A

総務課長

責任の所在は基本的には土地の所有者。道路
沿線は道路境がどこかによって責任の所在が変
わってくる。また、個人の場合は植栽した個人
の責任になる。

● 民生費

▲3千155万3千円

決算見込みによる複合福祉施設管理運営委託料及び社会福祉協議会活動補助金の増額、国民健康保険事業の決算見込みによる国保事業会計繰出金の減額他

● 衛生費

1億6千568万円

決算見込みによる栲原病院への基準外繰出として、病院事業会計繰り出し金の増額、検診実績見込みによる総合保険協会委託料の減額他

● 農林水産業費

▲5千777万9千円

実績見込みによる雲の上の温泉にかかる燃料費の増額、面積の確定による多面的機能支払補助金及び中山間地域等直接支払交付金の減額他

● 商工費

▲616万8千円

地域おこし協力隊の採用実績による観光振興担い手育成業務委託料の減額他

● 土木費

▲3千417万4千円

除雪等の見込みによる機械等賃借料の増額、決算見込みによる下水道事業会計繰り出し金の減額他

● 教育費

▲1千216万1千円

人員配置の確定によることも園に係るパート報酬、地域学校共同本部事業等の活動実績による各種ボランティア謝金の減額他

● 災害復旧費

▲1千270万円

本年度台風の到来がなく災害がなかったことにより金額減額

● 諸支出金

779万5千円

普通交付税にて追加措置された臨時財政対策債償還基金費を積立する減債基金積立金の増額他

可決

全員賛成

※松原診療所特別会計補正予算(第2号)から給与集中管理特別会計補正予算(第2号)までの説明は省略する。議案一覧と議員賛否状況を参照。

当初予算

令和8年度各会計予算

一般会計予算から給与集中管理特別会計補正予算までの説明は省略する。

内容は、連合審査での主な質疑・答弁、議案一覧と議員賛否状況を参照。

総括質疑

Q

西川 慶男

今回の予算について、健全財政に向けての事業見直し、改革を期待していたが、前年度予算と変わっていないと思っている。所信表明や施政方針で言ってこられた「自分たちの町は自分たちでつくる」「時代の変化に合う生活しやすい環境づくり」「継続事業であっても改善が必要であれば見直しをする」「安定した収入財源確保に取り組み」など、どっぴう風に予算へ反映がされているのか。

A

町 長

予算編成については、様々な行政サービスを厳しい財政状況のなか行っているが、何を優先して、また削減・縮小という判断も当然しなければならぬ。ただ今すぐそういった判断をすることは非常に危険であるし、一番大切なことは町民の皆さんが一体となり、議会や関係団体が互いに協力し合い助け合いながら行政運営を進め、この一年間でしっかり精査をさせてもらいたい。



事業見直しを期待していたが前年度予算と変わっていないではないか

この1年間でしっかり精査させてもらいたい



条例

梼原町ふるさと応援基金条例の 制定について

年々増加するふるさと納税の寄附金について、寄附金を当年度の事業に充てるのみとするのではなく、基金に積み立てることで次年度以降に実施する事業の財源に充てられるよう条例を制定するもの。

可決 全員賛成

情報通信技術の効果的な活用のための 規制の見直しに伴う関係条例の整備に ついて

国が近年デジタル改革を推進していることを受け、本町においてもデジタル化を阻害するアナログ規制の見直しに向けて法令等の洗い出しを実施し、対象となる条例を一括して改正するもの。

可決 全員賛成

梼原町職員等の旅費に関する条例の 制定について

現在の国内外の経済社会情勢の変化等に対応するため「国家公務員等の旅費に関する法律」が大幅に見直されたことを受け、本町の旅費条例についても国に準じた改正を行い、現行条例の全部改正するもの。

可決 全員賛成

梼原町特定乳児等通園支援事業の運営に 関する基準を定める条例の制定について

子ども・子育て支援法が一部改正されたことに伴い、特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を町の条例で定める必要があることから、新たに条例を制定するもの。

可決 全員賛成

梼原町立梼原こども園設置及び管理に 関する条例の一部改正について

令和8年4月1日から乳児等通園支援事業が開始されることに伴い、所要の改正をするもの。

可決 全員賛成

子ども・子育て支援法第82条の過料に 関する条例の一部改正について

令和8年4月1日から乳児等のための支援給付（子ども誰でも通園制度に係る新たな給付）が開始されることに伴い、乳児等のための支援給付に関して質問検査の忌避や支給認定証拒否等をした者に対しても過料をすることができるよう改正するもの。

可決 全員賛成

梼原町生涯学習交流センターの設置及び 管理に関する条例の一部改正について

地域を担う多様な人材の確保及び高知県立梼原高等学校の魅力が高めることにより、地域の活性化を図

ることを目的として整備している「梼原町生涯学習交流センター」の2号棟の完成に伴い、所要の改正をするもの。

可決 全員賛成



完成した梼原町生涯学習交流センター2号棟

栲原町保健事業手数料条例の一部改正について

町が手数料を定める検診及び予防接種について、近年の事業内容の変化及び人件費や物価上昇から手数料を見直し、所要の改正をするもの。

可決 全員賛成

栲原町農業集落排水処理施設の管理に関する条例の一部改正について

可決 全員賛成

栲原町公共下水道条例の一部改正について

可決 賛成多数

栲原町簡易水道事業給水条例の一部改正について

可決 全員賛成

以上3つの議案は、令和6年1月に発生した能登半島地震において、給水装置工事及び排水設備工事の指定工事業者の不足により、宅内配管及び給排水装置の復旧が遅れ、上下水道施設を使用できない期間が長期化した状況を踏まえ、国からの通知に基づき、災害その他非常の場合、必要があれば栲原町以外の市町村が指定した事業者による給排水装置工事の実施を可能とするため、所要の改正をするもの。

滞在型カントリーハウスの設置及び管理に関する条例の一部改正について

可決 全員賛成

栲原町川西路地区和田島構造改善センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

以上2つの議案は、条例に記載されている所在地の地番に誤りがあることが判明したため、現地表示及び登記簿上の正式な所在地と一致させるため、当該部分を正しい地番に改正するもの。

可決 全員賛成

栲原町バイクライダー交流宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

施設整備やネット予約の導入により、バイクライダーによらず一般観光客やファミリー層等の利用が増えたこと及び、類似施設と比較しても十分なサービスを提供している反面、それに見合う施設使用料になっていないこと等を考慮し、料金体制を見直し、季節に合わせた柔軟な料金設定が出来るよう使用料を見直し、所要の改正を行うもの。

可決 全員賛成

栲原病院事業の設置等に関する条例の一部改正について

経営強化を図る観点からも、近隣病院の水準に合わせた個室料金に見直し、特別室及び個室の室料差額について改正を行うもの。

可決 全員賛成

栲原町バイオ・ディーゼル燃料製造施設の設置及び管理に関する条例の廃止について

家庭等から回収した使用済み油をバイオ・ディーゼル燃料に精製加工し、塵芥車の燃料として利用してきたが、車両性能の向上により、新しい塵芥車他新型車

両等には、廃油由来のバイオ・ディーゼル燃料の利用ができなくなったこと及び設備の老朽化も著しいことから、条例を廃止するもの。なお、当初の目的である環境やエネルギーが持続できる資源循環型社会の実現に貢献し、その役割を達成することができている。

可決 全員賛成

栲原町過疎地域持続的発展計画について

令和3年度に策定した「栲原町過疎地域持続的発展計画」が令和7年度で期間満了となるため、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、新たに令和8年度から令和12年度までの5年間を計画期間として策定するため、同法第8条第1項の規定により議会の議決を求めるもの。

可決 全員賛成

栲原町指定金融機関の指定について

令和8年5月31日で現指定金融機関との契約期限が満了となるため、栲原町指定金融機関設置条例第2条第1項の規定により議会の議決を求めるもの。

可決 全員賛成

指定管理者の指定について(栲原町堆肥製造施設)

栲原町の公の施設に係る指定管理者の指定手続き等に関する条例に基づき、栲原町堆肥製造施設について、国等へ手続きが完了し、令和8年4月から改めて本格稼働を行うことに伴い、同条例第4条の指定管理者の候補者を選定したので、地方自治法第244条の2第6項の規定に基づき、議会の議決を求めるもの。

可決 全員賛成

工事請負契約変更について
(令和6年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業
梶原町地域マイクログリッド構築工事)

可決 全員賛成

工事請負契約変更について

(令和6年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業
梶原町木質バイオマス発電所(熱電併給)建設工事)

可決 全員賛成

工事請負契約変更について

(令和6年度(緑)梶原町生涯学習交流センター増築工事)

可決 全員賛成

工事請負契約変更について

(令和7年度防災・安全社会資本整備交付金事業
第1-A76-029号 町道日野地線法面改良工事)

可決 全員賛成

以上4つの議案は、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決をお願いするもの。

報告

専決処分の報告について(工事請負契約変更)

(令和6年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業
梶原町木質バイオマス製造施設増設工事)

工事請負契約の更新が生じたため、地方自治法第180条第1項の規定により、令和8年2月26日に先決処分したので、同条第2項の規定により議会に報告するもの。

議案一覧と議員賛否状況

私は ○ × です



3月 定例会(第384回)

(賛成○、反対×、議長は裁決に加わらない)

議案番号	議案名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			矢野明	藤原伸	來米豊史	森田呂弥	西川豊正	土釜清	市川岩亀	西川慶男
第1号	専決処分の承認を求めることについて (令和7年度一般会計補正予算(第7号))	承認	○	○	○	○	○	○	-	○
第2号	令和7年度一般会計補正予算(第8号) 総額を59億9千301万7千円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第3号	令和7年度松原診療所特別会計補正予算(第2号) 総額を1千918万円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第4号	令和7年度四万川診療所特別会計補正予算(第2号) 総額は変更なし・内容補正	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第5号	令和7年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号) 総額を5億2千584万4千円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第6号	令和7年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号) 総額を7千502万5千円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第7号	令和7年度介護保険事業特別会計補正予算(第3号) 総額を5億1千472万9千円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第8号	令和7年度簡易水道事業会計補正予算(第2号) 収益的収入及び支出の総額を1億876万円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第9号	令和7年度下水道事業会計補正予算(第3号) 収益的収入及び支出の総額を1億382万9千円とし資本的収入及び支出の総額を5千61万6千円にするもの	可決	○	○	×	○	○	○	-	○
第10号	令和7年度電気事業会計補正予算(第1号) 収益的収入及び支出の総額を6千383万円とし資本的収入及び支出の総額を9千354万円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第11号	令和7年度病院事業会計補正予算(第3号) 収益的収入及び支出の総額を6億8千590万1千円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第12号	令和7年度給与等集中管理特別会計補正予算(第2号) 総額を11億829万2千円にするもの	可決	○	○	○	○	○	○	-	○

議案番号	議案名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			矢野明	藤原伸	來米豊史	森田呂弥	西川豊正	土釜清	市川岩亀	西川慶男
第13～23号	令和8年度各会計予算 審議概要については4～7ページを参照	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第24号	栲原町ふるさと応援基金条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第25号	情報通信技術の効果的な活用のための規制の見直しに伴う関係条例の整備について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第26号	栲原町職員等の旅費に関する条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第27号	栲原町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第28号	栲原町立栲原こども園設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第29号	栲原町生涯学習交流センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第30号	子ども・子育て支援法第82条の過料に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第31号	栲原町保健事業手数料条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第32号	栲原町農業集落排水処理施設の管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第33号	栲原町公共下水道条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第34号	栲原町簡易水道事業給水条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第35号	滞在型カントリーハウスの設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第36号	栲原町川西路地区和田島構造改善センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第37号	栲原町バイクライダー交流宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第38号	栲原町病院事業の設置等に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第39号	栲原町バイオ・ディーゼル燃料製造施設の設置及び管理に関する条例の廃止について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第40号	栲原町過疎地域持続的発展計画について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第41号	栲原町指定金融機関の指定について	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第42号	指定管理者の指定について (栲原町堆肥製造施設)	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第43号	工事請負契約変更について (令和6年度 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業 栲原町地域マイクログリッド構築工事)	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第44号	工事請負契約変更について (令和6年度 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業 栲原町木質バイオマス発電所(熱電併給)建設工事)	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第45号	工事請負契約変更について (令和6年度(繰)栲原町生涯学習交流センター増築工事)	可決	○	○	○	○	○	○	-	○
第46号	工事請負契約変更について (令和7年度 防災・安全社会資本整備交付金事業 第1-A76-029号 町道日野地線法面改良工事)	可決	○	○	○	○	○	○	-	○

一般質問

矢野 明 議員



財政改革の取り組みは？

町長

町民の皆さんと協議を推し進める

Q 本町の厳しい財政状況と社会保障費増大を踏まえ、自立財政基盤確立へ向けた具体的改革方針と今後の対応について問う。

A

町長

榑原町は町税が約5%と低く、地方交付税に大きく依存する脆弱な財政構造にある。財政力指数も低く、經常収支比率は高水準で余裕は乏しい。一方で、ふるさと納税や企業版寄付を活用し、脱炭素、教育、観光などに戦略的投資を実施。基金や地方債を適切に管理しつつ、DX推進や定住促進など将来を見据えた施策に取り組み、依存財源に偏らない持続可能な財政運営を目指している。

財政基盤を構築する具体的改革ビジョンを問う。

A

町長

厳しい財政状況を踏まえ、まず自主財源の柱である町税や基金繰入に依存する町単独事業を精査し、足元を固めるため事業の選択と見直しを進める。過去実績や将来見通しを丁寧に検証し、必要に応じて事業にメスを入れるなど「賢いシェイプアップ」を図る。一方で、国・県の補助金を積極的に活用し、単独事業の置き換えを検討するが、自己負担も伴うため慎重に判断する。あわせて国・県との連携強化や情報収集に努め、財源確保の機会を広げる。さらに地方債は交付税措置を見据えた「賢い借入」により将来負担を抑制しつつ活用し、ふるさと納税の訴求強化により自主財源の拡充を図り、持続可能な財政運営を目指す。

Q 民間出身の強みを生かし、スピード感やコスト意識、成果重視の経営手法を行政に導入し、業務効率化やDX推進、人材育成を通じて持続可能な行政改革を進める考えを問う。

A

町長

民間企業は赤字では成り立たないとの認識のもと、行政にもスピード感やコスト意識を取り入れ、危機感を共有し職員の意識統一を図る。行政の自立とは住民が稼ぎ豊かになることであり、収入確保と支出抑制を徹底することが重要とする。議会や団体、町民が一体となり従来の常識にとらわれず意識改革を進め、協力しながら持続可能なまちづくりを推進していく考えである。

黒字転換は困難でも、借金を減らすための目標時期を明確に設定し、財政健全化の具体的スケジュールを示してほしい。

A

町長

一年間かけ、しっかりと町民の皆さんと協議をしながら、ご理解ご協力をいただき、その中でいい方向を模索していくことが必要であると考える。時間を切るより、皆さんとのこの交渉をするプロセスをしっかりと取っていきたいというふうに考えている。

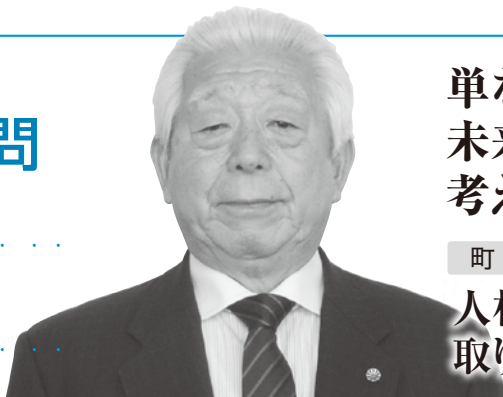
Q 国・県の補助金依存の現状を踏まえ、経費削減にとどまらず自主財源確保や投資の選択と集中、DX推進等により持続可能な

Q 現状の厳しい財政下で、借金増加に先んじて改革を進める必要があ



一般質問

西川 慶男 議員



単なる削減ではなく 未来への投資として 考えよ

町長

人材育成等しっかり 取り組んでいく

○持続可能な
財政運営について

Q ますます地方交付税等への依存度が高まることを前提に、将来世代への負担軽減の観点から、今取り組むべき財政改革として、どの歳出分野を優先し、どの分野を見直していく方針なのか。

A 町長

まずは現状を把握し、医療や福祉、道路といった生活に直結する部分はしっかり守っていく。生活に困らず普通の暮らしが普通にできるといふところは一番必要であり、自分の生きたところで最後まで生き切りたい、そういう想いも受け止めながら病院も守っていく必要がある。今後4年間、精一杯全力で走らせてもらいたい、そういう思いは変わっておらず、今後一年間かけて精査する。

Q 現状の財政運営を続けた場合、将来どのようなリスクが生じると分析しているのか。

A 町長

基金がなくなった場合には、町単独事業が全くできないことになり、災害支援や必要最小限のことしかできなくなる。

Q 事業の「続ける・縮小する・廃止する」と、守るべきもの、変えるべきものを判断する基準をどのように考えているのか。例えば診療所にしても、道路が整備され町中心部まで20分足らずで移動できる。病院の統合も一つの改革という視点で考えないといけないと思うが。

A 町長

統合は慎重に検討する必要がある。オンライン診療やへき地診療所など様々な方法があると思うが、一番重要なのは町民の皆さんの利便性であり、ここに住んで良かった、この病院があつて良かったと思われることが一番重要と考える。今後試行錯誤しながら、住民の皆さんの声を聴き協議をしていきたい。

Q 中長期の財政見通しを踏まえ、財政改革を単なる削減ではなく、未来への投資として位置づけていくことが

重要と考えるが、戦略は。

A 町長

まずは教育だと考えている。教育は、地域の子どもたちの未来を形成する大変重要なことであり、まさしく人づくりという未来への投資と考えている。

また、違う視点では、太郎川公園開発事業やまちづくり計画と地域経済の循環（地域でお金が回ること）が必要であると考えている。人口減少の中で、地域でお金が回らなくなってくると、衰退の一途を辿るため、様々な情報を得ながら雇用も確保していくよう取り組んでいきたい。

○森林資源活用の加速に向けた取り組みについて

Q 戦後に植林されたスギ・ヒノキが一斉に利用期を迎えており、森林の成熟度が進んでいる。適切な伐採と更新を行うことで森林の健全化が保たれていくものがある。現在の森林資源の成熟状況をどのように把握しているのか。また、森林資源を積極的に活

用し、地域経済に還元していく好機であると考えるが、活用方針や取り組みについて伺う。

A 町長

柵原の財産は山である。守り育てる時期から活用する時期が変わってきており、考え方を改めて担い手の育成にしっかり取り組む。

また、木材を搬出しなければならず、森林の広域的機能を発揮するためには、搬出しやすく整備するための支援が必要であると考えており、しっかりと取り組んでいきたい。



森林資源を活用し地域経済に還元するよう取り組む
木質バイオマス発電所が太郎川公園内に完成

一般質問

森田 呂弥 議員



リーダーとしての覚悟は!!

町長
梶原を思う気持ちは誰にも負けない!!

Q 今後人口減少とともに医療介護・福祉の需要が更に増大すると見込まれるが、この現状をどのように受け止めているか。

A 町長

先行して過疎化が進む本町では、高齢者人口の減少が予測される中で、どのような福祉サービスが今後どれだけの必要かというところを見込むことが、大変難しい状況となっている。公的サービスだけで全てを支える事には限界がある。地域の支え合いの力も大切にし、住民関係団体、社会福祉協議会とともにできることを持ち寄り、地域づくりに取り組む必要がある。

Q 伝統文化や集落コミュニティの維持について、行政としてどこまで支え、どのような形で継続させていくのか。

A 町長

集落活動センターが、地域づくりの中心的な役割を

担っていると考えている。今後行政として寄り添いながら、地域の皆さんが協力し合い、支え合って活動を続けていく取り組みを応援したいと思う。

A 町長

一方で、担い手の高齢化や施設の維持管理などの課題もある。そのため、将来を見据えた経営的な視点も大切であると考えている。まずは地域の中で、集落活動センターをどのように維持していくのかをしっかりと議論していただき、行政としてもその取り組みを後押ししていく。

Q 高齢者が地域の役職を担わざるを得ない現状について、行政として具体的な負担軽減策はあるのか。

A 町長

いくつになっても代表を降りる事ができないという声が届いている。まずは地域の中で話し合いをしていただき、どうしても難しいということであれば、行政

としてこういう方法があるという提案はさせていたたく。ただ、行政がそれをけん引して進める事は、強引な地域づくりになりかねないので、その形は取りたくないと考えている。まずは相談いただければ、協議をさせていきたい。

Q 部落の合併や広域での連携について、行政としての検討状況は。

A 町長

大きな問題であると認識している。切実な状況があれば、その声にしっかりと耳を傾けていきたいと考えている。そのうえで、行政として何ができるのか、支援策について検討しながら、議員が言われるような後押しにつながる取り組みを進めていきたいと考えている。

Q 各種委員の選任について、制度や体制を柔軟に再構築する意思はあるのか。

A 町長

私は役場の中では行政経験が最も浅い立場だが、この町を思う気持ちは誰にも負けないつもり。職員の皆さんと連携し、一枚岩となって、町民一人ひとりが主役として輝けるまちづくりに全力で取り組んでいく。

A 町長
このことについては、しっかりとした協議をさせていただきたいと考えている。

Q 行政として「守るもの」と「再編するもの」の基準は。

A 町長

しっかりと精査をさせていただきます、皆さんと共に考えさせていただきます。

Q 施政方針について、やや抽象的な印象を受けた。リーダーとして「こう進めていく」という明確な表明を。

A 町長

私は役場の中では行政経験が最も浅い立場だが、この町を思う気持ちは誰にも負けないつもり。職員の皆さんと連携し、一枚岩となって、町民一人ひとりが主役として輝けるまちづくりに全力で取り組んでいく。

一般質問

藤原 伸 議員



太郎川公園開発計画を今後どのように進めるか

町長

道の駅機能と宿泊機能を備えた観光物産を目指す

○観光開発について

Q 太郎川公園開発計画について、所信表明での「原点に戻る」「勇気を持って見直す」「本丸の利益」とは何を意味するのか。停滞期間中に物価高騰など様々な情勢の変化があり、新たな構想での再構築が必要ではないか。

A 過去の開発審議会の経過では、十分な審議が尽くされていないと感じており、一つの案に固執せず、多様な案を出し合いながら再検討すべきだと考えている。「ホテル先行」のイメージを正し、宿泊機能を備えた観光物産拠点が町内経済の循環に繋がることこそが、本丸の利益としての本来の考え方であり、それが「原点に戻る」という意味である。

町民の立場になって「道の駅とは何か」を考え直す必要があるのではないかと考えている。

A 町長

地元産品の販路拡大や防災拠点など、多面的な機能を担う拠点として、既存の枠組みの中で十分な連携が図られる構想と認識している。町民ニーズは経済の循環が主軸であるが、今後は橋原ならではの「余暇を楽しむ役割」についても、しっかりと構築していく必要があると考えている。

Q 国道197号線の構想は、町中心部に踏み込まない単線往復の印象が強い。完成しても利用頻度が増えなければ、関心の低下からサービスの低下さえも招きかねない。中心部の国道440号線に、周回観光や町民の余暇も加えた「公園型まちの駅」を新設することこそが、本丸への利益誘導や町の活性化に繋がると考えるが。

A 道の駅の新設には多くの条件があり、町中での設置は厳

町長

しい。現構想の基本は既存の「道の駅」のリニューアルであり、太郎川公園を中心とすることがベストであると考えている。

Q 徒歩で通える場所での娯楽やカルチャーが充実してこそ、住んで良かった、選んで良かったと思える町になる。これを望む若年層や子供たちの要望に、どのように向き合っていくのか。

A 議員からは、子供たちの意見を反映した提案を再三頂いている。かつて国道改良の際、西川豊正議員を会長とする「匠の会」が立ち上がり、住民主体で理想の町を目指した歴史がある。将来子供たちが帰ってきてほしいと思える町となるよう、今後も共に考えていきたい。

町長

○渇水対策について

今回の渇水事案から、早期節水の呼びかけ、広報活動の実施などの能力の向上を図ることや必要に応じて県と連携をし、他の地域から水運び供給することも視野に入れ、緊急時の水の供給ルートの確保、協力体制の構築、インフラ整備など今後検討を行う必要があると考えている。今後、複数年かけ整備が行えるよう予算計上を行う予定。

A 町長

Q 断水実施の説明は十分だったのか。

A 想定外の貯水量の低下により、急な断水実施に戸惑われた事に関しては、申し訳ないと思っている。今回の反省をもとに、改善できるところは速やかに改善をしていく方針。

町長

Q 今期、30年に一度と言われる水不足が発生。長期にわたり夜間断水を実施。これは単発的として対策を講じ

町長

一般質問

来米 豊史 議員



働く人の住宅が不足しているのでは？

町長

町営住宅等空きがあるため、今後の状況を踏まえて必要な時に検討していく

現時点では住宅需要の実態調査は行っていない。

A 町長

Q 現在町内には約20人ほどの外国人労働者がいる。その約半数がプレハブ住宅で共同生活しており、住環境の整備は重要かつ喫緊の課題であると考え、住宅需要について、町として実態調査を行っているのか。

また町の財政状況も踏まえ、新たな住宅建設については慎重に検討する必要がある。

現在、町営住宅16戸と移住定住住宅9戸があり、合計25戸が空いている状況である。住宅については、まず企業や関係者が努力し、それでも難しい場合に行政が後押しするという役割であると考えている。

A 町長

Q 町内で働く人の住宅不足が問題になっている。3年前に同じテーマで一般質問を行ったが改善や変化は見られない。町はどのように認識しているのか。

必要に応じて企業などの意向を聞きながら、今後検討していく。

A 町長

Q 空き家活用だけでなく、新たな住宅整備を含めた住宅政策は検討しているのか。

空き家活用を基本としながら、今後の状況や必要性を踏まえ、住宅政策について検討していく。

最後に

住宅は単なる生活の問題ではなく、町の産業と未来を支える基盤であると考え、本町がこれからも人が働き暮らせる町であるために、働く人の住宅確保について、町としても明確な政策を持つことを強く求めて質問を終わる。

わたしたちはこんな議会活動をしています

議会の動き

- 12月
 - 10日 開発審議会
 - 12日 カルスト会忘年会
 - 12日 森林組合忘年会
 - 22日 魚族保護会
 - 22日 国道440号線清掃及び交流会
 - 22日 高原荘議会の打合せ
 - 23日 畜産公社理事会
 - 24日 高幡事務組合議会定例会
- 1月
 - 3日 二十歳を祝う集い
 - 6日 仕事始め式
 - 8日 新年挨拶回り
 - 16日 人口戦略フォーラム
 - 25日 在阪榊原ふる里会総会
- 2月
 - 4日 畜産公社理事会
 - 8日 第5分団初年
 - 8日 榊原消防団出初式
 - 18日 榊原町国民健康保険運営協議会
 - 20日 高知県町村長・議長大会
 - 20日 高知県町村議会議長会定期総会
 - 20日 高幡町村議会議長会臨時総会
 - 21日 中土佐町合併20周年記念式典
 - 25日 開発審議会
 - 25日 高幡広域市町村圏事務組合・高原荘打合せ
 - 27日 高幡東部清掃組合議会定例会
 - 27日 高幡広域市町村圏事務組合議会定例会

令和7年12月から令和8年2月までの会議、委員会

月 日	用 務	月 日	用 務	月 日	用 務
12月10日	議会運営委員会	12月25日	12月臨時会	1月14日	議会広報編集委員会
12月17日	12月定例会	1月8日	議会広報編集委員会	1月21日	新議員研修
12月18日	12月定例会	1月14日	全員協議会	2月17日	新議員研修
12月19日	12月定例会				

※本会議、委員会等、議長及び委員長が出席要請した活動のみ記載

📷 表紙写真の紹介

上本村の岡田毅さんと共に農園「雲の上の畑」で長ネギやピーマン等を栽培しながら育児や家事に奮闘する若いお二人を取材した。
(取材の様子は心のふれあい広場に掲載)。



寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

東京都町田市
中岡 利徳 様

❖ 閉会中の所管事務調査事項 ❖

各委員会は、6月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会
→ 6月定例会の運営について
- まちづくり常任委員会
→ 上水道事業について
- 議会広報編集委員会
→ 議会広報の発行について

お詫びと訂正

議会広報「四万十源流」令和8年1月20日第134号 7ページ「12月定例会の概要」の記事の中に、一部誤りがありました。正しくは下記のとおりです。お詫びして訂正いたします。

(誤) 専決処分(一般会計補正予算(第4号)) 35万9千円
(正) 専決処分(一般会計補正予算(第4号)) 305万9千円

あとがき

春の陽光が日ごとに暖かさを増し、色とりどりの花々が芽吹く季節となりました。今号も、町議会の活動や地域の取り組みを少しでも身近に感じてもらいたいという思いで、編集に努めてまいりました。

議会では、町民の皆さまの声を政策に反映させるべく、日々活発な議論が交わされています。新年度のスタートにあたり、本誌が議会への関心を深め、皆さまの声を届けていただくきっかけとなれば幸いです。

最後に、制作にご協力いただいた皆さま、そして日頃から議会活動を温かく支えてくださる町民の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも議会と皆さまをつなぐ架け橋として、より充実した情報発信に努めてまいります。

矢野 明 記

心のふれあい広場

「農業女子、夢を耕す。」

「雲の上の畑」から広がる、新しい農業のカタチ

上本村（かみほんむら）にある農園「雲の上の畑」（以下「同農園」という。）は、2012年に岡田毅さんがシトウ栽培からスタートさせた農園です。千葉県で農業改良普及員として勤務し、定年を機に帰郷して農業経営を開始されました。

中山間地域という条件不利地でありながら、今、この場所ので農業に魅力を感じて活躍する女性たちがいます。その瑞々しい活動の現状取材しました。

①吉門広恵さん（39歳）
 よしかどひろえ
経歴 梶原町出身。専門学校卒業後、整備士として勤務。



歩み 2015年より同農園

で勤務。2児の育児休業を経て2021年に復職。
現在 おちめん営農組合のオペレーターとしても活躍中。現在、3反の長ネギ栽培を基幹に、独立を目指して就農準備を進めています。

②山本友理子さん（36歳）
 やまもとゆりこ



経歴 大阪府出身。県内の酪農家や春野町の農園で計8年間勤務。
歩み 町内の男性との結婚を機に、2023年7月から経営継承を目的として同農園へ。

現在 2児の子育てに奮闘しながら、ピーマン栽培を中心に就農の道を歩んでいます。

Q1 農業への思いをお聞かせください

吉門さん

農業が本当に楽しくなりました。子どもたちが草引きや収穫を手伝ってくれ、今では立派な戦力です。休みの日には夫も協力してくれます。思うようにいかないことや、無理をすると体に堪えることもありませんが、勤めに出るより

時間の融通が利き、子育てしやすい大らかな環境が気に入っています

山本さん

私は農業が好きです。色々な考え方がありますが、結局は『好きかどうか』が続けていく鍵だと思っています。課題は冬場の仕事の確保です。先日、地域の方に柚子の収穫に誘っていただき、とても助かりました。今後、自ら経営していく上での雇用維持についても考えていきたいです



吉門さんはオペレーターとしても活躍している

Q2 これからの夢を教えてください

吉門さん

多くは望まず、夫の定年退

職後に家族で力を合わせて経営していけたらいいなと思っています



岡田農園では多くの女性が働いている

山本さん

まだ学ぶことがありますが、病気を出さないなど安定した経営を目指したいです。また、地元の味噌作りの継承やサツマイモ作りにも挑戦したいと考えています

【おまけ】おすすめの美味しい食べ方は？

吉門さん 長ネギ

お鍋が一番！あとは「ねぎぬた」も最高に美味しいですよ

山本さん ピーマン

肉厚なので、シンプルに焼

くだけで素材の味が引き立ちます

取材を終えて

お二人の農業に対する真つすぐな姿勢は、地域の人々を引き付ける力に満ちていました。地域の幸せを願いながら、目の前の仕事にコツコツと取り組む姿には、私たちが学ばべきことが多くあります。後継者不足などの課題はありますが、地域を支える女性たちの「たくましさ」と「美しさ」を強く感じる取材となりました。

西川慶男 記



取材の様子